

[プロジェクト名]	[分野]
ライフセービング活動	地域交流
[代表者]	
工学部 機械工学科 2年 上江洲 智政	
[参加者]	
<p>上江洲 智政（工学部・機械工学科・2年） 林 尚志（人文学部・社会科学科・2年） 笛木 啓太（人文学部・社会科学科・2年） 久保庭 秀和（教育学部・情報文化課程・2年） 八木 圭子（教育学部・養護教諭養成課程・2年） 渡辺 法広（教育学部・国語選修・3年） 斎藤 貴文（理学部・理学科・1年） 岡村 健太（理学部・理学科・1年） 神立 由希（人文学部・人文コミュニケーション学科・1年） 西村 亮（工学部・マテリアル工学科・1年） 馬場 祐之（理学部・理学科・1年）</p>	
[連携先]	
大洗町、大洗サーフライフセービングクラブ	
[プロジェクトの実施計画概要]	
<p>私たち茨城大学サーフライフセービングは毎年夏（7月後半～8月）に大洗サンビーチでパトロールを行っています。私たちは皆大洗の海を監視している大洗サーフライフセービングクラブに所属しており、そこでライフセービング活動をしています。また、夏のパトロールでは大洗町の観光課と協力して、大洗サンビーチに来てくれたお客様に満足して帰ってもらうための様々なイベントを企画、運営しております。また、夏のパトロール以外にも大洗町が企画した行事にスタッフとして参加して、大洗町との交流を深めています。</p> <p>私たちの日々の活動は、夏のパトロールに向けて行っています。したがって、パトロールを成功させる（無事故）ためには、日々のトレーニングが重要です。しかし、茨城大学サーフライフセービングクラブにはレスキュー機材がないために、スイムやランなどの基礎トレーニングのみを行っています。そこで、レスキューボードやレスキューチューブを使ったより実践的なトレーニングができれば、夏のパトロールを絶対無事故に近づけると考えています。そして、この夏の監視活動で大洗町や大洗サーフライフセービングクラブに貢献します。</p>	
[プロジェクトの成果報告]	
<p>今回のプロジェクトで購入していただいたレスキューボード、レスキューチューブによって、茨城大学 SLSC0 が海での実践的な海での練習をすることができました。以前は、機材がなかったのでプールでのスイムトレーニングや陸でのトレーニングだけでしたので、夏の監視活動のための実践的なトレーニングができませんでした。機材があることで、私達の実践的な技術を上げることができました。したがって、私達の技術の向上は、夏の監視活動にも直接関わってくると思います。私達の夏の監視活動は、日々の活動（トレーニング、大洗町のイベントの参加など）の積み重ねが重要なので、今年の夏の監視活動にはとても有益なものとなったと思います。</p> <p>しかし、今回購入していただいた機材は、レスキューボード、レスキューチューブをそれぞれ1本でしたので、現在茨城大学 SLSC に所属しているメンバーは11人で、今年の4月に入ってくる新入生を含めると機材が足りないことが予想されます。去年は、交代しながら機材をまわしてトレーニングをしました。これから現在よりも人数が増えることで、海での練習の続行が難しくなります。よって、これからの課題は機材を増やしていくことです。</p>	